

特集・課題解決型インターンシップ

地域の活性化に生かす

川崎北部市場を「応援」

「3色ユッケの市場ん丼」「3fish旬丼」を考案



▲「3色ユッケの市場ん丼」
▲「3fish旬丼」

川崎市中央卸売市場北した新メニュー「市場めし」が完成した。食卓でのメニュー提供開始に先立ち、場内事業者やマスコミ関係者約30人を集めて11月10日に同市場で行われた試食発表会では、主催者を代表して栗原薫同市場長が「今回のプロジェクトが市場活性化の大きな種となり、市場めしに対する関心が高まることを期待しています」とあいさつ。石川ゼミ7人、岩尾ゼミ7人の学生たちによる活動記録の発表に続き、出席者が2種類の開発メニューを味わった。

石川ゼミの市場めしは「3色ユッケの市場ん丼」(750円)。マグロ、イカ、サーモンに、タマネギ、キュウリ、アボカド、タクアンなどたっぷりの野菜と生卵をあしらった、甘いユッケ醬風味のタレをかけていた。場内関係者の感想は「魚が苦手な人でも食べられそう」「幅広い年代層に受けるのでは」「野菜を使ったところは若い人らしい発想。市場勤務者に対しては少し課題が残るが場外から訪れる一般人には受けそう」と好評。

キャリアデザインセンターの提供するプログラムで、川崎市内の企業・自治体・NPO法人などが抱える課題に、学生が主体的に取り組み「課題解決型インターンシップ」に参加した学生の成果を紹介しよう。

キャリアデザインセンター主催



▲石川・岩尾両ゼミ生たちによる発表の様子



▲出席者は試食会で2種類のメニューを味わった

石川教授は「価格や具材だけではなく、食べるシーンや時間帯などを考慮して開発にあたるのもマーケティングを学ぶうえで大切なこと。教室でとはまったく違う、学生たちの顔を見ることができました」と労をねぎらった。

石川ゼミのリーダー・金井理紗さん(商3)は、将来の仕事に生かしたい「試食発表会はプロジェクトの一つの目標点。食品開発の仕事に就きたくてプロジェクトに参加した。3」は「開発の段階でいろいろと試行錯誤を重ねました。今日はとても緊張しましたが、さまざまな意見が聞けて励みになりました」と話した。



▲アロマキャンドルの販売と製作体験で節電をアピール

「いいじゃんかわさき」のイベント企画・運営



▲製作したアロマキャンドル

アロマキャンドル製販

売り上げは被災地に寄付

大竹強志さん(経済3)を代表とする7人は、R川崎駅東口周辺の6商店街合同イベント「いいじゃんかわさき」(10月15、16の両日開催)の実行委員会からの課題である「商業エリアまるごとお

祭りの商店街のイベント企画・運営」に参加した。メイン会場の東田公園で、節電の意識を高めてもらうとアロマキャンドルの販売と製作体験を実施。大竹さんは「製作体験が好評で、多くの子どもたちに参加してもらったことができた。また、販売用のキャンドルは自分たちで製作したもので、売り上げは被災地に寄付します」と話した。



▲東ティモールのボランティアと一緒にの吉川さん(右)=2010年4月

教育で変わる青年たち

大学を卒業後、カンボジアを拠点に、NGO(非政府組織)のメンバーとして奮闘する吉川さやかさんに活動の様子や学生時代の思い出を聞いた。

カンボジアで教育施設のNGO活動

吉川さやかさん (平19経済)



▲カンボジア校の卒業式で=2010年8月

ある時は担任の先生、ある時は寮生300人分の食事を作る給食部の担当として、また、カリキュラムや教材の向上をチームの仲間と考え、時には地方分校のコーディネーターにも……。NGOの運営面にも携わり、現在、ファンドレイジング部として団体への資金集めや、他のNGO機関との関係づくりを担当している。

その活動の原点は、国際経済学科・狐崎知己ゼミやNGO論での勉強や体験にあった。発展途上国開発などの理論を学び「現状を実際に見てみたい」と、NPOが主催するフィリピンのワークキャンプに参加。カンボジアにも行った。「20代前半の自分と同じ世代の若者たちが、いきいきと教育を通して変わっていく姿を日々、見てセンターを運営していることに驚きました」。

就職活動が始まった3年次の秋、カンボジアで出会ったボランティアたちを思い出した。4年次を休学して9カ月間、カンボジアに長期滞在。「まじめに壁に名前を記載」と決心しました。

卒業後、SOLS 24/7 全般への一般寄付のプロジェクトを進めている。金額を問わない学校運営の国際プログラムに参加。イギリス、シンガポール、マレーシアからの仲間と共に、3年間、NGO運営、教育、人の可能性、人生について学び、またはfacebook(sols247)が載っている。国際インターンシップなどの問い合わせも受け付け中。